

本号でふれた主な地域紛争の概要

①ボスニア＝ヘルツェゴビナ

旧ユーゴスラビア解体後、複雑な民族分布が生み出した紛争。1992年の独立宣言や国連加盟に前後して、支配地域の拡張、民族浄化を狙う主要3民族の間に凄惨な武力抗争が勃発。欧米諸国の仲介の結果、1995年11月に包括和平案に合意（ Dayton合意）。ムスリム人・クロアチア人連合のボスニア連邦とセルビア人主導のスルブスカ共和国という二つの主体から成る国家に。NATOが和平維持のため平和安定化軍を展開し、国連の上級代表事務所が民生部門を担当。現在はEU加盟の正式交渉へ向けて条件整備中。

②コソボ

アルバニア系が多数を占めるコソボ自治州は、セルビア人にとっても民族の聖地。1980年代末からアルバニア系、セルビア系両住民の緊張が高まり、武力によるコソボ独立を唱えるアルバニア解放軍（KLA）が台頭。1997年初めKLAとセルビア治安部隊の衝突をきっかけに戦闘拡大。1999年3月、セルビアの軍事行動を制止するため、NATOがユーゴを空爆。国連は、国際安全保障部隊を展開するとともに、国連コソボ暫定機構を設置。現在は、国連の仲介の下、コソボの最終的な地位確定に向け交渉が続く。

③シエラレオネ

1991年、反政府勢力・革命統一戦線（RUF）によるゲリラ闘争が激化し、東部ダイヤモンド鉱山の支配権をめぐる、政府軍との内戦に発展。軍事クーデターにより政権を掌握したRUFは、政情不安の中、市民に残虐行為を繰り返して、国際社会の非難を浴びる。2000年には政府とRUFが停戦合意し、国連シエラレオネ派遣団（UNAMSIL）が展開。2002年、国連は戦犯法廷の設置を承認するとともに、武装解除を終えて内戦終結式典を実施。10年以上にわたった内戦の死者は5万人ともいう。

④リベリア

独立以来国を支配した米国解放奴隷の子孫と、先住民族の対立に起因。1990年、先住民族系初のドゥ大統領に対し、テラーのリベリア国民愛国戦線（NPFL）が蜂起。NPFLと暫定政権派のリベリア民主統一解放戦線（ULIMO）の戦闘は、1993年の包括和平協定で一応終息。1995年の和平会議を経て、1997年には西アフリカ平和維持軍（ECOMOG）の監視下で総選挙を実施。2002年にはテラー大統領と反政府勢力の内戦が再燃。翌年テラーが亡命、政府と反政府2派の和平協定により内戦は終結。

⑤スーダン

1956年の独立以来、北部のイスラム教アラブ系住民への優遇が続き、南部の非イスラム教系住民との紛争が絶えず。1989年、イスラム原理主義に立つバシル政権が発足すると、南部を支配するスーダン人民解放軍（SPLA）と対立。内戦の犠牲者は200万人ともいう。同時多発テロ以降米国に接近したバシル政権は、2005年、米国の仲介でSPLAとの和平協定に調印。一方、和平から取り残された反政府勢力がダルフールで蜂起し新たな火種に。チャドと中央アフリカに拡大し国際紛争の性格を強める。

⑥ソマリア

1980年代初めに反政府武装闘争が表面化。1991年首都を制圧した統一ソマリア会議（USC）は、バーレ大統領を追放したが、反バーレを標榜する氏族間の主導権争いが泥沼に。モハメド暫定大統領は、USCの内部抗争から台頭したアイディード将軍に首都を追われ、国連PKO部隊の派遣を要請。1992年から展開された国連ソマリア活動（UNOSOM）は、アイディード派の抵抗により失敗。2000年に暫定政府が成立するも、内戦状態は継続中。

⑦ルワンダ

独立以来、国民の9割を占めるフツ族主導の独裁政権が続いたが、1990年に少数派ツチ族の反政府勢力・ルワンダ愛国戦線（RPF）が北部地域を制圧。1994年、大統領搭乗機撃墜事件をきっかけに、政府軍やフツ族強硬派民兵組織などによるツチとフツ穏健派に対する大虐殺が発生し、80万人が死亡したとされる。ツチ族保護を名目にRPFが全土を掌握して、同年、ツチ主導のビジムグ政権が発足。2000年にはツチ族初の大統領も誕生し、国民融和と経済再建を進めつつある。

⑧パレスチナ ⑨レバノン

1947年に国連は、パレスチナをユダヤ人とアラブ人の両国家に分割する決議を行った。アラブ側がユダヤ人に土地の過半がわたる分割案を拒否。ユダヤ人国家イスラエルだけが建国された。以来、アラブ諸国とイスラエル間で4度戦争が発生。1967年の第3次中東戦争で、ヨルダン川西岸とガザ地区をイスラエルが占領した。1993年にイスラエルとパレスチナ解放機構（PLO）は、パレスチナ暫定自治を認めたオスロ合意を締結。その後自治交渉は進まなかったが、2005年にガザ地区からイスラエル軍が一方的に撤退。しかし、2006年夏、ガザ地区の武装勢力によるイスラエル兵誘拐事件を機に、イスラエル軍がガザ地区や北隣のレバノンへ侵攻した。パレスチナ問題は中東の各種紛争の根源とも言われるが、パレスチナ国家の国境画定、占領地のイスラエル人入植地、エルサレムの帰属等、諸課題解決のめどは依然立っていない。

⑩イラク

1990年8月、イラクはクウェートに侵攻、占領。1991年1月、国連安保理決議に基づき、米国中心の多国籍軍がイラクを攻撃し、2月にクウェートを解放（湾岸戦争）。直後、イラク国内で以前から弾圧されていたシーア派とクルド人がそれぞれ蜂起したが、鎮圧され、フセイン政権は生き残ることになった。2003年3月、大量破壊兵器の保有継続などを理由に、米国等の有志連合国がイラクを攻撃し、4月にフセイン政権は崩壊。しかし、大規模戦闘終結後も、宗派対立やテロの激化など混乱が続き、2006年5月の新政権発足後も、国家再建や復興は停滞。米軍等のイラク駐留も長期化（イラク戦争）。

⑪アフガニスタン

1978年の「4月革命」以降、混乱と内戦が継続。90年代後半に国土の大半を支配したイスラム復古主義者のターリバーン政権は、国際テロ組織のアル・カーイダ及び指導者オサマ・ビン・ラーディンを庇護。2001年9月11日にアル・カーイダが米国で同時多発テロを起こすと、10月、米国等はアフガニスタンを攻撃し、11月にターリバーン政権は崩壊。その後、国際社会の支援を受けて国家再建を開始。2004年12月には新政権が発足したが、2006年に入りターリバーン残存勢力のテロ等が頻発して治安が悪化し、復興が停滞。

⑫カンボジア

1978年、当時のポル・ポト政権に対し、ヘン・サムリンらがベトナムの支援を受けて攻撃を開始し、1979年カンボジア人民共和国を樹立。これに対してポル・ポト派はゲリラ戦を展開、1982年にはシアヌーク派、ソン・サン派と3派連合政府を結成した。1987年から和平協議が開始され、1991年にパリ和平協定を締結。同協定により、1992年から1993年まで、国連カンボジア暫定統治機構が、停戦監視、行政管理、選挙の実施・管理などに当たった。

⑬東ティモール

1975年にポルトガルからの独立を宣言するが、インドネシアに侵攻され、1976年には併合を宣言された。1998年、スハルト政権崩壊後インドネシアは独立容認に転じ、1999年の住民投票では大多数が独立を支持。これに対し、独立反対派が大規模な破壊活動を行ったため、国連安保理は多国籍軍を派遣。国連東ティモール暫定統治機構の下で独立に向けた準備が進められ、2002年に独立を達成。国情は安定せず、2006年には国軍離脱兵の暴動が発生、安定強化のため国連ミッションが設立された。